

飯南

いいなん

第31号

平成24年10月19日

飯南町議会 島根県飯石郡飯南町下赤名890番地
飯南町議会事務局 TEL:0854-76-2190 FAX:0854-76-2867



今年は思うたよりよう出来とるで。〈下赤名／9月13日〉

平成24年9月定例会終わる

- 平成24年度 一般会計補正予算 …………… 02～03
- 決算審査特別委員会設置・議会活動報告 …………… 03
- 一般質問に9人が登壇 …………… 04～12
- 常任委員会報告 …………… 13
- 議会運営委員会報告・採決の結果 …………… 14
- 討論 …………… 15
- 明日を拓く（地域の人達のよりどころ 赤名駅） 16

飯南

平成24年

9月定例会終わる

9月定例会は、9月11日から9月21日までの11日間の日程で開きました。

町政に課せられた諸課題に因應するために活発な議論を展開しました。

○「支所機能のあり方検討委員会設置条例」は、総務厚生常任委員会で審査し可決しましたが、本会議で記名投票した結果、6対5で否決となりました。本会議を開くために開催する議会運営委員会において、この条例案は取り下げをべきだとの意見が大勢でしたが、執行部は当初予定通り本会議へ議案上程、その結果によるものです。

○一般会計補正予算に、倒産した(株)サブロ島根に関する弁護士費用が計上されてきました。重要案件であるため2つの常任委員会による連合審査会を開き慎重審査しました。その後の本会議で記名投票の結果、賛成5・反対4・白票2で可決しました。

○議員定数について鋭意審査してきましたが、2人削減し10人とする案が議会の大勢を占めました。これを受け議員発議により議案上程し採決した結果9対2で可決しました。

○景山副町長に対し、役場新庁舎建設問題に係る一連の対応、および(株)サブロ島根の倒産に係る善後策に不備があったとして、問責決議案が議員提案され、8対3で可決しました。なお、問責決議は法的拘束力はありません。



議会全員協議会の議題

- ＜8月20日(木)＞
 - ①飯南町議会議員定数について
- ＜8月27日(火)＞
 - ①志津見ダム・神戸川の状況について (国土交通省より説明)
 - ②来島ダムについて (中国電力より説明)
- ＜8月28日(水)＞
 - ①飯南町議会議員定数について
 - ②飯南病院、来島診療所の医師の転出について
 - ③庁舎問題について
- ＜9月21日(金)＞
 - ①総合振興計画評価委員会の報告について
 - ②高齢者福祉計画について
 - ③高齢者世帯等住宅緊急除雪費補助金交付要綱の改正について
 - ④アンテナショップについて
 - ⑤診療体制について
 - ⑥神戸川の河川環境に関する専門委員会について
 - ⑦障がい者虐待防止について

株式会社フロンティアあかぎの経営状況の報告



陳情

- 「下米島地区の地域振興を求める要望」(陳情者) 飯南町下米島730番地
- 「審査委員会」教育経済常任委員会 (審査結果) 継続審査

否決された議案

- 条例関係……飯南町支所機能のあり方検討委員会設置条例の制定

議会活動報告(7月~9月)

- 7月**
- 4日 臨時議会
 - 6日 議会広報編集委員会：紙面校正
 - 9~12日 教育経済常任委員会視察研修 (福井県JA越前たけふ、石川県羽咋市ほか)
 - 24日 中山間地域研究センターと意見交換
 - 25日 議会運営委員会
 - 25日 教育経済常任委員会(農業委員会と意見交換)
 - 27日 全国和牛能力共進会最終選抜会
 - 30~31日 議会広報全国研修会
 - 31日 総務厚生常任委員会(県交通対策課と意見交換)

- 8月**
- 2日 議会全員協議会
 - 7日 議会全員協議会
 - 7日 庁舎問題検討協議会
 - 7日 議会運営委員会
 - 20日 議会全員協議会
 - 27日 総務厚生常任委員会
 - 31日 県市町村議会広報研修会(松江市)

- 9月**
- 4日 教育経済常任委員会
 - 5日 総務厚生常任委員会
 - 7日 議会運営委員会：9月定例会の提出議案、日程外の協議
 - 11日 **9月定例会**：本会議、町長行政報告、提出議案の説明、質疑
 - 14日 : 本会議、一般質問
 - 18日 : 委員会審査
 - 19日 : 委員会審査
 - 20日 : 委員会審査
 - 21日 **9月定例会**：本会議、討論、採決・全員協議会
 - 26日 教育経済常任委員会視察研修(広島県東広島市)
 - 27日 議会広報編集委員会：一般質問要約

平成24年度 一般会計補正予算は

町営バス購入事業、公共土木施設災害復旧事業、長期債繰上償還元金など。

5億6880万円の増額

各会計	補正予算額	予算総額
一般会計	880万円	73億4082万円
国民健康保険事業	1520万円	8億3954万円
後期高齢者医療事業	0万円	1億7020万円
介護保険サービス事業	98万円	3428万円
簡易水道事業	1456万円	2億3129万円
下水道事業	340万円	4億3084万円
病院事業会計	664万円	10億6289万円

特別会計



町政を問う 一般質問

9月定例会

3期目の町政への思いは

A 今の任期を全うする



難波俊司議員

山崎町長の任期は、あと5カ月足らずの短い期間である。新町発足当初、大変厳しい財政状況の中、経費の節減や町債の繰上償還

をはじめ、町長自ら、また職員の給与削減に取り組んだ。その結果、財政はおおむね良好な状態に改善された。

また、重要課題として定住促進に取り組み、平成22年度の国勢調査では、前回調査より人口減少率が県内町村で一番低い状態にまで改善した。

これまでの実績を踏まえ、3期目の町政を望むが、町長の胸中は。

山崎英樹町長

新生飯南町の初代町長として、「いのち彩る里飯南町」の実現に向けて全力で取り組み、町民がこの町で幸せに暮らすために尽くしてきた。

現在、庁舎問題をはじめ幾多の課題があり、任期中に一定の方向づけをするため全力をあげる所存だが、現時点では次の事については気持ちを整えることができていない。

Q 今こそ新庁舎建設を
支所機能検討先に

難波議員

合併特例債の発行期限が5年延長されたとはいえ、新庁舎建設は今行うべきと思うが、町長の考えは。

山崎町長

財政的に有利な合併特例債が利用できる間に建設すべきだが、町政座談会の意見を聞くなかで、新庁舎建設計画は一時おいて、支所機能などの検討を先に進めることにはしたい。

エリーゼの工事現場



Q 利用者主体のダイヤを
配慮して協議する

難波議員

尾道松江線が開通後、高速バスの運行は廃止と聞いているが、利用者にとって十分配慮したダイヤ編成を望む。

山崎町長

三次方面は備北交通赤名線を頓原まで延長し、1日最大5往復を想定している。

松江・出雲方面については、赤名から町営バスにより、道の駅掛合経由で、高速道路上に新設される雲南吉田バス停まで、1日3〜4往復の運行で協議を進めている。利用者にとって配慮したダイヤを計画していく。

Q 地域振興策の説明を
町民に情報提供する

難波議員

本町誘致企業の進捗状況、また広島市へのアンテナショップ開設計画は現在どのような状況か。

山崎町長

誘致企業である(株)エリーゼは、現在まで古市工業団地内の進入路整備がほぼ完成し、工場建屋の基礎工事が始まっている。12月中旬に施設が完成し、社員採用は12月末までに10名、来年春までに合わせて17名雇用される見通しだ。

アンテナショップは、広島市内でのビルテナントを視野に検討を行っているが、町民にも情報提供を行う。

庁舎建設は急ぐな

A 全方向から議論を進める



瀧尻行雄議員

本年7月に開催された住民説明会で、頓原・八神両地区会場では「新庁舎を赤名とする大義名分はどこにもない」と、厳しい反発があった。私は町民への対話と理解が十分と感じたが、町長はどのように受けとめたか。

これまでも諸施策を推進するにあたって「応分の理解を得た」としてきたが、「応分の理解」とは何だったのか。庁舎の機能と利便性は全町民の平等の権利であると考えるので、町長は庁舎建設問題をリセットすべきだ。旧2町が綱引

Q いじめ対策どうする
全力で取り組む

瀧尻議員

いじめは最近、本町でも起きてきているようだが、実態はどうか。

先般、文部科学省は4項目を中心とした「いじめ対策」を発表した。これまで学校現場にお任せの状態であったものを変更したものである。

- ① いじめ問題で外部人材を活用
- ② 道徳教育や体験活用を通じたいじめ未然防止
- ③ スクールカウンセラーの拡充
- ④ 生徒指導推進員の増員と教員研修の充実

外部から、弁護士、研究者、精神科医、元警察官らを委嘱し、いじめ問題アドバイザーという機関を常設する方針だと聞

くが、本町におけるいじめ問題に対しどのように対応するのか。

安部 巨教育長

本町でもいじめが発生している。平成22年度1件、23年度1件、24年度2件だ。

本年7月、文科相より談話が発表され、学校、教育委員会、家庭、地域および関係者が連携し、一丸となってこの問題の解決に取り組むことが示され、教育委員会としても全力で努力している。

本町では、小3〜中3全てを対象に「QUテスト」を実施することにし、スクールカウンセラーの充実を県へ要望している。

学校に対し、自ら点検を重ね、問題解決や未然防止に全力で取り組むよう指示している。

※【QUテスト】
学校生活における児童生徒一人一人の意欲や満足度等、および学級集団の状態を質問紙によって測定するもの。
飯南町のQUテスト対応は、平成24年度より町内の小3〜中3までの全児童生徒を対象に年2回実施している。



自死予防に全力を

A 地域住民と一体で進める

る。また、健康問題や家庭の問題などは、専門家の相談活動など、社会的支援により回避できると考えられる。

秋田県八峰町では保健師による地域全体をあたためる「絆」づくりにより効果を挙げており、また、ゲートキーパーによる取り組みもある。本町も取り組みを考へる。



伊藤好晴議員

平成17年以降、町内で自ら命を絶った人は24人に上るが、この数字は全国水準でも高い。自死を防止するために全力を傾注する必要がある。

原因となっている要因のうち、失業・倒産、多重債務などの社会的要因は、制度の見直しや相談・支援体制の整備などにより回避できると考えられ

山崎英樹町長

「健康いなん21計画」の重点に、心の健康を掲げている。また、昨年4月から飯南病院へ心療内科を設置し、診療を開始した。ご指摘の八峰町へも職員を派遣し、ゲートキーパーなどについて研修させている。

人材育成を行い、自死予防を地域住民と一体となつて展開できる環境づくり、地域づくりを進める。

※「ゲートキーパー」
悩める人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人のこと。

町政を問う

一般質問

9月定例会

農産品流通拠点施設を

A 生産体制考え検討



門 眞一郎議員

町長は本町農業の6次産業化に向け積極的に取り組み、そのひとつとして、広島市内へのアンテナショップ開設を急いでいる。しかし、売ることのみ専念し、流通の仕組みが欠落している。

農業者が自助努力し、利益を確保するためには、6次産業化を進めることが大切だ。流通の要は貯蔵施設と配送センターだが、町長の考えは。

山崎英樹町長

農業のあり方として6次産業化が求められている。貯蔵施設があれば、年間通じて需用に対応できるし、加工・販売など農業振興の仕組みとして必要だ。

しかし、生産者の現状や運営など方向づけも必要なので、今後検討する。

Q 防災無線の整備を急げ
A 検討会議で協議中

伊藤議員

8月に火災が発生した際、CATVの告知放送のみで、防災無線が生かされなかった。月に1度の試験放送は長期間行われていない。防災行政無線にどのような認識を持っているのか。

CATVはケーブルが切断すると放送不能になる決定的な弱点がある。また、屋外に放送設備が無い。デジタル防災無線を全町に整備すべきだ。

このほかさまざまな問題が残されているが、す



防災無線

べて片付けた上で庁舎を考へるべきだ。

山崎町長

8月の火災においては、火災場所などが特定できず防災無線を使用しなかった。試験放送は1日3回のチャイムで行っているが、検討する。

防災無線の全町配備は「飯南町の情報化を推進する検討会議」で検討中だ。

庁舎については、今手がけることで後世に責任を果たす。

Q 無消毒種子で特裁米拡大を
A 関係機関と検討する

門 議員

「JA越前たけふ」は管内の全農家へ無消毒種子、あるいはその苗を供給している。さらに、農家の県に対するエコロジ―農家認証手続はJAが代行し、農家負担の軽減や特別栽培米生産拡大に力を入れている。

本町では、来年から全量無消毒種子による水稲苗をJAが供給することも可能だが、協力を求める考えはないか。

JAは、種子の供給を従来どおり行うとしているが、農家へ供給される水稲種子は全量無消毒にすべきだ。町長の考えは。

山崎町長

JAの水稲苗は、頓原地域では全量無消毒の種子を使用して育苗センターで生産している。赤来地域の苗は、これまで個人委託方式だったこともあり、消毒種子を使用してきた。



現在は、消毒種子の供給が基本となっているが、全量無消毒種子にする」と病害発生の可能性がある。温湯消毒施設を整備する必要があるので、関係機関と検討していく。

※「JA越前たけふ」
JA越前たけふは、農家のための農協に返ることを使命として全農を離脱した。同JAは福井県の40%に相当する特別栽培米を生産しているが、全量直販している。富田組合長は「今から販路を広げてブランドを定着させ、守りに入るのではなく攻めていきたい」と力を込めている。

Q 公共料金引上げるな
A やむを得ない状況

伊藤議員

国民健康保険料が本年度平均15%引き上げられ、今後3年間同率の引き上げが行われようとしている。さらに、下水道料、介護保険料・後期高齢者医療保険料、消費税と続き、将来的には水道料金も上がる可能性がある。

負担軽減に力を入れて、暮らしやすいようにすべきだが、町長の考えは。

山崎町長

安心して暮らせる環境づくりのため、生活環境の整備や、教育・医療・福祉の充実などのために一定の経費は必要だが、収入は限られている。

合併後値上げは出来る限り抑えてきたが、今はやむを得ない状況になっている。

Q 民生委員負担減を
A 後継者育成努める

門 議員

民生・児童委員は高齢者世帯、母子家庭など、守備範囲が多岐にわたっており、負担感が大きい。自身の仕事と両立することが困難であり、担い手が不足している。

自治組織等と民生・児童委員の連携を密にすることにより、職務への理解者を増やし、支障のない範囲で協働することにより、負担軽減や後継者育成を図るべきだが。

山崎町長

県は、民生委員・児童委員の定数見直しなどを検討している。県町村会は、実情にあった人数が必要であり、安易な定数削減はできないと県に要望している。

本町では、委員の業務量について調査しているが、実態からすれば安易な定数削減はできない。これを踏まえ、地域との連携による負担軽減、そして後継者育成に努めていく考えだが、民生・児童委員の後継者は非常に難しくなっている。

路線バス確保に全力を

A 運行経費など支援要請



長島正一議員
尾道松江線開通後の国道54号のバス運行について、「代替案固まる」との新聞報道があった。しかし、特に県庁所在地である松江方面へは、当町

から大変時間がかかるなど問題だ。最終的には政治判断が重要であり、政治決着が求められると思うが所見は。

山崎英樹町長

これまで、本町が陸の孤島とならないよう国や県に要望してきたが、今後はダイヤ編成や運行経費について、いかに支援を求めようか。節々には議会にも相談しながら行動していく。

Q 豪雨対策に万全の備えを A 初動は24時間体制で

長島議員

局地的豪雨に際し、行政施設の浸水・自動防災システムのダウン・職員の参集困難などが指摘されているが、本部機能の確保について質す。大災害時に情報伝達システムがダウンした場合、当町にも連携が必要なた



くさんの施設があるが、どう対応するのか。また、的確な情報収集による避難確保が行政に問われているが、どのように考えているか。

山崎町長

大雨警報や洪水警報が出た場合の初動は24時間体制をとり、被害拡大を防ぐ。本庁舎が機能しない事態になれば、最寄りの庁舎・支所に担当職員が集まることも想定している。電子機器が使用できない場合を想定し、ペーパー書き込みの訓練も行っている。

情報共有システムに不

具合が生じた場合には、関係機関が対策本部に集まる。その上で、警察無線・消防無線・国交省の無線・行政防災無線などを利用し、社協・病院・診療所などへの情報共有を図る。

気象庁や県の情報収集システムは今精度がよくなっている。これらを活用しながら基礎情報を早く収集し、避難情報や警戒情報を出していきたい。

Q 広島アンテナショップに期待 A 飯南町らしい店に

長島議員

中山間地域の農業は「産直」で成り立っているとも言われており、本町の農家は来年度開設予定の広島アンテナショップに大変期待している。しかし、出店場所、運営主体とその範囲など、取り組み内容が明らかでない。早急に具体的方針を示し、栽培計画を農家に説明していかないと、来年夏のオープンに間に合わないのではないか。

山崎町長

集客が見込める広島市内で、来年夏のオープンをめざしている。駐車場の付の郊外型が難しいため、室内型アンテナショップ

への変更を検討している。核になる店舗では飲食提供を中心とし、アンテナショップでは町の情報発信・高原野菜の産直・特産品販売・屋台などに飯南町らしいショップにしたい。

運営主体は広島市内で出店経験のある民間企業を検討しており、経営を任せる範囲は今はまだ明確にしていない。アンテナショップ推進協議会に農産物部会があり、そのルートで情報を流しているが、再度農家に呼びかけるので、ぜひとも一緒に取り組んでいきたい。

●この外に、長島議員から町長に対し次の質問がありました。
◆54号活性化アクションプラン推進協議会を設置し「食の魅力アップ」に取り組んでいるが、町民への浸透や効果が図られていないとして、スタンプリやEJ級グルメに重点的に取り組むよう、一段の努力を町長に求めた。
◆食育や産直の面から学校給食に町内産食材を利用するよう求めてきたが、前向きな取り組み姿勢が見られないとして、安部巨教育長に現状を質した。

一般質問

町政を問う

9月定例会



障がい者福祉の推進を

A 現状をふまえ検討する

熊谷兼樹議員

①本町の行政一般職員は法により2人の障がい者雇用が必要だが、現況は。

②本町の障害者就労継続支援施設で就労している障がい者の工賃平均月額。また、本年から障害者就労継続支援施設が増え、仕事の確保が大変な状況で、行政として仕事の優先的発注を増やす努力や、民間業者に協力を求めて仕事の発注を要請すべきだ。

③本町出身の障がい者が、町外の施設11箇所に22人入所しており、環境が整備されれば帰町したい意

向がある。また、町内に在宅の障がい者も多く、その養護者も含めて高齢化が進めば将来への不安は大きくなる。その解消のため、入所施設を建設すべきだ。

④これまで、障がい者の入居施設や支援施設を近隣の市町に委ねてきたため、障がい者に接して支援できる人材が不足している。

将来、施設を建設し充実したサービスを提供するには、人材育成を支援する必要がある。また、障害の有る無しにかかわ

らず、生活支援の必要となるために社会福祉士を配置すべきだ。

山崎英樹町長

①現在、職員は2人雇用しており、クリアしている。来年度法改正されると3人の雇用が必要で、もう1人の雇用に努める。

②本町には、障害者就労継続支援B型事業所が2カ所あり、1カ所は初年度のため未定で、他の1カ所は1人当たり平均月額7千円だが前年より減額しており厳しい現状だ。

このような状況のなか、簡単な作業を主眼に新しい事業への取り組みもみられる。

今、行政として清掃業務等について民間会社と契約し、その従業員に障がい者を雇用していただいている。これの拡充ができるか検討していく。

③長年親しんできた地域での生活継続、あるいは

周辺住民との交流は、障がい者に好影響がある。その意味から、大規模な施設より家庭的な雰囲気なかで生活できる、地域に密着した施設の設置を検討していきたい。

④人材育成は、事業所の実態を聞き、支援の必要性や支援の形を検討していく。

また、民間会社での業務開始支援や、要支援者への適切なサービス提供・地域課題の解決等を行うネットワークとして、基幹相談支援センターの設置をめざしている。その業務遂行には各種の有資格者が必要で、そのなかで社会福祉士の配置を検討していく。

※【社会福祉士】専門知識や技術をもって、心身や環境上の理由から日常生活に支障がある人達の相談にのり、助言・援助を行う人の国家資格。



●この外、林業行政について、GISの活用・森林組合から町への人材派遣・木材等のストックヤード確保・森林マスタープランを検証するプロジェクト会議設置などの進捗状況を町長に質した。

新庁舎ぶれずに赤名へ

A 任期中に努力



安部 誠也 議員
町長は、庁舎建設場所を赤名とする方向を出しているが、4つのゾーン推進をもとに、ぶれる事の無いよう大所高所に立ちリーディングを発揮したい。
官民格差の大きい給与問題だが、町長や職員給与削減などで身を削り、町民負担を減らすことで新庁舎建設の理解を得る必要があるが、どう考える。

合併算定替え延長を国に要望している

A 国に要望している

安部 議員
本町も合併後10年間は合併算定替えのメリットを受けている。算定替えがなくなった場合、地方交付税が減少し歳入不足を生じないのか。
中山間地域の小さな町村が合併した自治体は、優遇措置の廃止による影響が大きいと言われているが、本町は同規模の2町合併であり、心配している。
町長は県町村会長として、算定替え延長を国に要望すべきだが、所見は。

げ償還などに努めている。県町村会として昨年度、国へ交付税の総額確保や算定替え期間延長などを要望した。

※【合併算定替/一本算定】合併後でも合併がなかったものと仮定し、合併前の旧町ごとに算定した普通交付税の合算額を、合併後10年間保障すること。その後、激減緩和措置として段階的に5年間で本来の算定となる(二本算定)

広島直行便を要望 物理的に困難

A 物理的に困難

安部 議員
国と島根県が尾道松江線を新直轄方式で建設したため、本町に及ぶ不利益は計り知れない。この点を国・県に主張し、新たな財政支援策を要望すべきだ。
広島からの観光や帰省客の利用が多いので、交通手段の確保は必要不可欠だ。そのためにも、広島直行便を備北交通へ要望すべきであり、今後ともよい関係を築くべきだが、どう考える。

山崎 町長
現行の補助制度に加え、県に対し新たな支援を要望しており、しっかりとやっていきたい。
備北交通は、保有するバス台数の不足などにより、広島行きが増便など物理的に困難だとして、今後の直行便運行を断念している。
利用状況を見ながら、逐次見直しは必要であり、備北交通との関係はしっかりと保っていく。



町政を問う 一般質問

9月定例会

登下校の安全確保を

A 万全を期する



安部 朋次 議員
本年4月、京都府亀岡市で、登校中の児童・保護者を巻き込んだ死亡事故が発生し、その後も痛ましい事故が相次いでいる。
本町ではこの事故後、児童・生徒の登下校時における交通安全に関する緊急点検は、どのように行ったか。また、点検の結果、安全対策にどう取り組み、関係者との連携はどう図っているのか。
危険性のある道路についての対応は建設課だが、道路状況や、環境整備をどのように考えているのか。

また、各学校では毎年通学路点検を行い、小学校では先生が児童とともに通学路を歩いて通学指導と危険箇所の把握に努めている。問題のある箇所については、学校から教育委員会が連絡を受け、それを建設課へ修繕等依頼している。
保護者は、PTA活動として通学路の点検を実施している。
児童の安全確保が第一であり、万全を期していく。

交通安全対策を推進

A 交通安全対策を推進

山崎 英樹 町長
今回の事故を受けて、国も道路の危険箇所の整備に予算措置をすると聞いている。
道路管理者として、町内全般にわたって交通安全対策を進めていく。

NPPO法人里山コミッションとは 住民と行政を結ぶ組織

A 住民と行政を結ぶ組織

安部 議員
総合振興計画の前期計画では、中間支援組織として里山コミッションを位置づけ、情報発信と産業振興を担ってきた。
後期計画では、生活支援を中心とするNPPO法人として設立し、事業を開始された。

この間の行政のかかわり、副町長が理事長に就任したいきさつ、設立費用、現在の事業内容、今後の方向性について問う。

景山 登美男 副町長

総合振興計画の後期計画で、住民や企業等と行政を結ぶ中間支援組織が必要との結論から、NPPO法人を設立した。
この組織の事業は、ほとんどが町の委託事業であり、行政と密接な活動をしていく必要がある。私が理事長に就いた。経費は、臨時職員の人件費、準備会費用等で140万円を要した。
現在の事業内容は、保健、医療、福祉の推進、まちづくりの推進、情報化社会の発展等の特定非営利活動、生活や地域団体への支援等9事業で組み立てている。

今後の方向性としては、役員だけの組織から住民参加型組織に転換し、当町の総合振興計画推進の一助になるようにしたい。



白い花をつけたそば畑



総務厚生常任委員会 委員長 長島 正一

飯南町支所機能のあり方検討委員会設置条例の制定

本条例は新庁舎建設と密接に関連しているため、次の審査意見を付し当委員会は可決した(本会議では否決)。

【審査意見(要約)】

支所機能に限定した検討ではなく、地域振興を推進する中で議論されるべきだ。座談会の意見を尊重し住民感情に配慮されたい。

平成24年度 一般会計補正予算(第3号)

財政管理費 50万円(委託料)

(株)サプロ島根へ対する貸付金に係る弁護士委託料。貸付金回収をめぐる発言が広範囲に及んだため、次の審査意見を付して可決した。

【審査意見(要約)】

サプロ島根への貸付金返済問題が未解決だが、執行部の責任は大きい。弁護士委託料は、連帯保証人側の調停申立に伴う対応だが、あくまでも全額回収に向け対処することを求める。



来島支所

地域交通対策費 1747万円(町営バス購入事業)

尾道松江線開通により、本町内の国道54号公共交通が廃止されるため、町民の交通手段確保対策としてマイクロバス2台を購入する。今後の具体的な運行計画について、利用者の利便性を最大限確保することを求めた。

教育経済常任委員会 委員長 門 眞一郎

平成24年度 一般会計補正予算(第2号)(専決処分の承認)

災害復旧費 2595万円

7月8・9日の豪雨災害における、農地35カ所・河川や道路69カ所の測量設計費。

平成24年度 一般会計補正予算(第3号)

道路橋梁費 1485万円

町道塚原和田線、朽畑橋の拡幅。

災害復旧費 2億5411万円

7月8・9日の豪雨災害における、農地35カ所・河川や道路69カ所分。

教育費 210万円

角井地区にあるスクールバスと除雪ドーザー格納庫の屋根修繕費。

以前から修繕を指摘されながら、担当課が不明なため先延ばしになっていた施設。

今回は教育委員会が修繕するが、公の施設全てについて担当課を明確にするよう審査意見を付した。



朽畑橋

その他 アンテナショップ

○来年1月の操業に向け下赤名に工場建設を進めている(株)エリーゼが10月1日、松江市朝日町にアンテナショップを開いた。超高水圧加工玄米を始めとする同社商品の宣伝と販売拡大に併せ、飯南町産の野菜や果物も販売する。

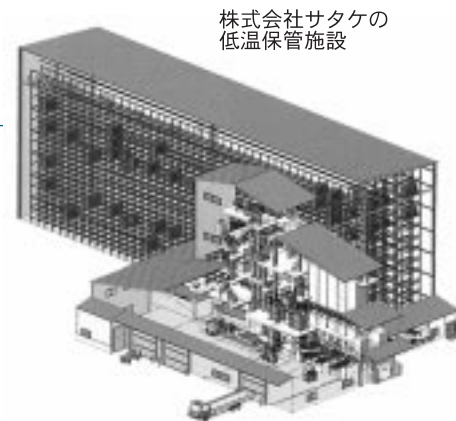
○尾道松江線の全線開通をにらみ、広島市内へ郊外型店舗としてアンテナショップが計画されていたが、借地料などが折り合わず、ビルテナントに計画を練り直すこととなった。

研修報告 ラック式低温貯蔵庫を視察

カントリーエレベーター建設が、過疎計画の平成25年度に盛り込まれている。本町の農業にとって、同施設とライスセンターのどちらが適しているかを調査するため、東広島市にある(株)サタケ本社へ視察研修した。

本町産米を、飯南ブランド推進の重点品目として位置づけ、農家所得向上を目指す必要がある。それには、食味値による分類を始め多様な個別管理が求められるため、ラック式低温貯蔵庫の導入は避けて通れない。

カントリーエレベーターは低温貯蔵施設を必要としないなど利点も多いが、当委員会としては、ライスセンターとラック式低温貯蔵庫の組み合わせが最適だという方向で、意見が集約されてきた。



株式会社サタケの低温保管施設

町政を問う

一般質問

9月定例会

石原敏郎議員
合併後8年の山崎町政を振り返るとき、次の6点が軟弱だったと考える。
①少子化の克服に向け、大胆な発想と周回な行動
②人が人を育てる文化
③新しい産業を興し、新



合併後の教訓を活かせ

A 皆で力を出し補い合う

たな雇用で町民所得向上
④目的と手段を鮮明にし、腰を据えた行財政改革
⑤広島経済圏を見据えた上で飯南町の地位強化
⑥政治と行政の責任を明確にした執行体制刷新
また、副町長や教育長に民間人が就任しなかったことも大きな特徴であり、弱点だった。
今後の町政は、これらを教訓として強化すべきと考えるが、所感は。

山崎英樹町長

これまでの山崎町政について、具体的に6項目をあげて指摘があったが、率直に言って、そのように感じるところもある。私は、この地以外で暮らした経験は3年間だけで、あとは公務員としてこの地に浸かってきた。そうした意味で、私の足らざるところを補うために、町民の方のもとより外部にも人材を求め、委

員会という形で意見をいただいていた。
また職員には、先進地に出向き勉強会に参加し人脈を形成することで、施策に生かして来た。
足らざるところは皆で力を出し合い、しっかりと埋めていかななくてはならない。

Q 特区構想で地域活性化を

A 全域を「どぶろく特区」に

山崎町長

石原議員
総合特区構想は地域活性化に有効な手段だが、平成25年3月末までの受理以降は当面指定を行わないと内閣府が通達している。
この機会を逃すことのないよう、醸成文化の象徴として「どぶろく特区」、しめ縄本来の姿に沿うよう「大麻草栽培特区」の、2つの特区構想を進めるべきだ。

どぶろく特区は、町全域を「生命地域 飯南町どぶろく特区」という名称で認定申請するよう事務を進めているが、総合特区でなしに、構造改革特区での認定を目指している。
麻の栽培は「あつと言ふような提案」で、今のところ総合特区というところは考えないが、内容を聞いたうえで整理していきたい。

Q 職員給与を抑えて雇用促進を

A 職員数を削減して対応

石原議員

現在、飯南町の経済は縮小スパイラルに陥り、町民総所得は下がり続け、多くの町民が苦しんでいると私は思っている。
役場職員1人当たりの給与を抑え、多くの町民を職員として雇用する、いわばワークシェアリングで雇用促進すべきだが、町長はどう考えるか。

山崎町長

本町は、職員数を削減して民間へ業務委託することで雇用を広げるといふ考え方だ。
里山コミッションはその一つであり、また保育所の社協委託も一部分だが関係がある。
職員給与を引き下げるワークシェアリングは、端的に言えば可能だと思ふが、本町としては、行政改革を進める中で雇用拡大に努めていく。

議会運営委員会報告

- ▼議会運営委員会は、適正な議員定数について議長から諮問を受けていました。議会全員協議会でも意見集約しながら、今定例会に2人削減し10人とする案を議員発議することになり、本会議において9対2で可決しました。
今後予測される人口減少や、税収の伸び悩みに対応する必要性、削減を望む住民の声などを反映させたものです。これにともない、今後最初に行われる一般選挙から、議員定数10人が適用されます。
- ▼また、議員定数を10人としたことに伴い、常任委員会の構成についても議論を深めた結果、条例改正し、これまでの委員会定数6人を8人に改めました。
総務厚生および教育経済の、二つの常任委員会に所属する委員はそれぞれ5人ですが、常任委員長と副委員長を除く3人が片方の委員会に複数所属できることとし、委員会定数を8人とするものです（各常任委員長と副委員長は複数所属しない）。

9月定例会における採決の結果

件名	結果	安部 朋次	小野 覚	難波 俊司	瀧尻 行雄	伊藤 好晴	永井 章	長島 正一	門真 一郎	安部 誠也	石原 敏郎	熊谷 兼樹
平成23年度飯南町各会計歳入歳出決算認定(決算審査特別委員会へ付託し、継続審査)	—											
株式会社フロンティアあかぎの経営状況報告	—											
専決処分の承認 平成24年度飯南町一般会計補正予算(第2号)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
専決処分の承認 損害賠償額の決定	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
● 飯南町支所機能のあり方検討委員会設置条例の制定	否決	○	○	○	●	●	●	●	○	○	○	○
飯南町公共事業再評価委員会設置条例の制定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町特定公共賃貸住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
町道の路線認定	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
雲南広域連合規約の一部変更	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
● 平成24年度飯南町一般会計補正予算(第3号)	可決	—	○	○	●	●	○	●	○	—	●	○
平成24年度飯南町国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成24年度飯南町後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成24年度飯南町介護保険サービス事業特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成24年度飯南町簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成24年度飯南町下水道事業特別会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平成24年度飯南町病院事業会計補正予算(第2号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

9月定例会における議員提出議案採決の結果

※ 発議第3号 飯南町議会議員の定数を定める条例の一部改正	可決	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○
発議第4号 飯南町議会委員会条例の一部改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
発議第5号 飯南町議会議員の議員報酬及び費用弁償支給条例の一部改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

9月定例会における議員提出決議案採決の結果

景山登美男副町長に対する問責決議	可決	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○
------------------	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

陳情の採決結果

陳情第4号 下来島地区の地域振興を求める要望	継続審査											
------------------------	------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

臨時会(7月4日開催)における採決の結果

飯南町課設置条例の一部改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
飯南町子ども等医療費助成条例の一部改正	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
財産(除雪ドーザ)の取得	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
財産(除雪ロータリー)の取得	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

●記名投票により採決した議案 ○賛成議員 ●反対議員 -白票
※採決にあたり討論があった議案

討論

議案第68号

飯南町支所機能のあり方検討委員会設置条例の制定

支所機能や、支所と公民館の連携に関することなどを検討事項とし、地域振興を進めるために「飯南町支所機能のあり方検討委員会」を設置する条例。

【反対討論】
門真 一郎 議員

町長の任期満了まで4カ月もあるのに、町民の思いが盛り込まれた条例が再提案されることを待ちたい。

伊藤好晴 議員

本庁舎建設より分庁方式がベターというのが頓原地区の雰囲気。公民館と支所の連携にも問題があり、ひたすら白紙に戻すべきだ。

石原敏郎 議員

例えば、志々は通年雇用施設、頓原は健康産業、来島は林業の中心、赤名は6次産業…とした観点を優先して考えるのが本筋。

【賛成討論】
安部 朋次 議員

支所が町内4地区の拠点施設として、機能充実を含め検討されるなら、新しいまちづくりのためにもこの条例は必要。

小野 覚 議員

新庁舎建設計画に伴っての条例案であり町長の手順は間違っていない。地域振興のために協議されることを期待し賛成する。

難波 俊司 議員

拠点施設として支所機能や公民館について検討することは重要。地域振興の足がかりとしての委員会設置に賛成する。

議案第73号

平成24年度飯南町一般会計補正予算第3号

3セク(株)サブロ島根は、平成23年5月31日破産した。町は連帯保証人4名に、貸付金3千万円の保証債務履行を求めてきたが、内2千万円が不履行のまま現在に至る。

ここに来て、連帯保証人側が裁判所へ調停申立を行ったようだと、町長は弁護士費用50万円を補正予算に計上した。

【反対討論】
伊藤好晴 議員

町長の対応遅れが今日の状況を招いた。解決には連帯保証人に対し訴訟を起こすしかない。調停に応じれば貸付金放棄につながるが容認できない。

石原敏郎 議員

調停申立書を確認していないのにも関わらず、なぜ調停に応じるのか理解できない。弁護士費用は取り下げろべきだ。

【賛成討論】
小野 覚 議員

現在のままでは進展が望めず、弁護士費用を否決しても展望は見えない。町長に全額回収を求めて賛成する。

難波 俊司 議員

この状態が続けば解決は望めないし町の利益にもならない。本予算は貸付金返済に向けた着手金であり、新たな一歩だ。

発議第3号

飯南町議会議員の定数を定める条例の一部を改正する条例

議員発議により、飯南町議会議員の定数を定める条例の一部を改正し議員定数を12人から10人に改める条例案。

【反対討論】
伊藤好晴 議員

定数削減の声は機能しない議会へのいら立ちだ。定数や報酬の削減と議会改革はイコールではない。10人では民意を代表しにくいし、少数意見の切り捨てにも繋がり、また新人議員の登場も難しくなる。

永井 章 議員

定数削減すると町民の声が届きにくい、定住促進対策により極端な人口減少はないと思われる。前回選挙での2名削減に引き続きの削減、以上3点を理由に反対だ。

【賛成討論】
門真 一郎 議員

若い世代は現状の報酬では立候補しにくい。定数を2人減らし報酬総額を据え置けば、1人あたり報酬は2割増え、子育て世代の議員活動も可能だ。人口がじりじりと減る中で町民の声は定数削減へと動いている。

明日を拓く

地域の人達のよりびびり



中国横断自動車道尾道松江線のうち、無料区間として三刀屋木次インターから三次までが来年春に開通します。これにともない、本町を経由する高速バスが廃止されることになりました。町は万全の対策をとるとは言っていますが、利用者は不安を抱えています。

長年にわたり赤名駅を守り続けてきた坂根佐津枝さんにインタビューしました。

問 赤名駅に勤めてから何年になりますか

答 昭和53年から赤名駅で仕事をしてきたので34年、もうそんなになるかねえ。

以前は合銀のところに駅があったけれど、あそこからここへ出てきたの。

前はもつと待合室が広くてお客さんも多かったけれど、今は狭くなってしまいました。

問 これまでで一番思い出に残る出来事は

答 それは今回バスが廃止されることよ。それが一番の重大事件。

それと、よくバスの中から手を振る人がいるよ。誰かわからないけれど私も手を振るの。それが心に残る出来事。

問 バスをよく利用するのはどんな人達ですか

答 中山間地域研究センターのお客さんや大学の先生。ほかに、OJK(旧大阪樹脂加工)や中国電力の方がよく利用されるけど、高速バスが無くなったら、どうやってここに来てんかねえ。

広島や松江へ行くのに乗り換えするようになるらしいけど、お年寄りや足の悪い人にはつらいよ。



町の人たちと(右側が坂根佐津枝さん)

問 駅をいつも利用する人がいると聞きますが

答 沢山おられるよ。椅子が3つしかない待合室だけれど、買い物に来た人が、ここでお茶を飲んで話をして、それから町営バスで帰るの。用事が無くても誰かが来ている。

あんた元気にしとると言ってるから聞かせるのがうれしい。

「お茶」をしに立ち寄っていた人はこう語った



ここが無くなれば困るよ、何とか残せんかねえ。三次の眼科に通つのに路線が代わって、眼科は見えてるのに段々遠くへ離れていつて難儀したことがある。三次行きのバスはどうなるの。

乗り換えがあるようでは、年をとつてからは松江へよう行かんよようになるねえ。

町外の高校に在学中、夏休みに家に帰るのが楽しみで、赤名駅にバスがつくと、親が迎えに来ていて、うれしいけど照れくさかったなあ。

夏休みが終わる頃には、またバスに乗って高校へ帰るんだけど、涙かきして下向いて、坂根のおばさんが手を振ってくれるんだけど、ちゃんとおばさんのほうが見れなかつた思い出があるの。

坂根さんはこんなシーンを見守り続けてきたんですね。バスを利用する人の施設だけれど、地域の人達と深く結びついてきた赤名駅。収益性だけでなく、町民はきめ細かな対応を望んでいます。

表紙の写真



編集後記

来年春には中国横断自動車道の掛合吉田インターから三次まで運用を開始される。合併前の頓原、赤来両町と吉田村の立場が逆転し、国道54号の交通量激減が指摘されている。かつて、広島浜田を結ぶ国道261号は、中国横断自動車道広島浜田線の開通により、交通量が十分の一に激減した。しかし、現在の邑南町は日本一の子育て村として、また毛利元就の軍資金銀山の町としてまちづくり成果をあげている。

そこで本町だが、大國主ゆかりの琴弾山、志津見での縄文土器出土、野見宿禰の本願地、赤名城にまつわる戦国ロマン、銀山街道、日本初のワイン醸造など歴史文化の豊富な資源を持っている。さらに、山陽エリアでの知名度は県内市町の中でも高い。

ピンチのときこそ良い考えが浮かぶものだ。今の状況をばねにし、全町が心をひとつにしてこの難局に立ち向かえば、必ず大きな成果を得ることが出来る。みんなで協力してまっすぐに取り組み、成果を分かち合おうではないか。

議会広報編集委員会

門 眞一郎



赤名駅

「今年の出来はどうかいね。」「思うたよりはえーでえ。」向こうの田の稲穂を眺めながら話す二人の姿は、どこか余裕が感じられ、威勢良く粉に処理していくコンバインのエンジン音にも勝る声がかかります。この田にたわわに実ったコシヒカリは、飯南ブランドで市場に出荷されていきますが、良質な米としての評価と市場性がどんどん高まっていけば、農家で水田比率が高い地域は豊かになっていきます。

今年は稗とりが大変だった分、収穫には大きな手ごたえが感じられます。